



いだ・こういち ● 熊本県玉名警察署交通課長 警部。昭和30年生まれ、玉名市在住。昭和53年から警察官として勤務し、その間約30年にわたって交通警察に携わる。

interview

玉名警察署交通課長 **井田浩一さん**

日頃から地域の交通安全を見守る玉名警察署交通課長の井田浩一さんに、交通安全のために大切なことをお聞きしました。

「思いやりの行動」が事故を防ぐ

交通事故が起きて喜ぶ人はいません。昨日まで元気だった家族が、突然亡くなってしまう—そんなことにならないように、事故は未然に防がなければなりません。

現在、数字の上では熊本県の事故発生件数・死者数は減少傾向にあります。これは道路整備や交差点の改良、ドクターヘリの導入などが進んでいるからです。しかし、環境

整備では、限界があります。

交通事故を根本からなくすために必要なのは「思いやりの行動」です。事故を起こさないために、相手

のことを考えた思いやりの行動が大切になります。例えば運転中、携帯電話を使用している歩行者を見かけたら「こちらに気

づいていないかも」と気を配る。また、お年寄りが交差点を渡ることができずに困っていたら、近くの人が手を引いて一緒に渡る。他にも通学路の見守りボランティアに地域で取り組むなど、こういった思いやりが、交通事故の防止につながるのです。

荒玉管内で交通死亡事故が多発しました。悲劇を繰り返さないために、私たちにできることは、何があるのでしょうか。

全国では毎年、約4千5百人以上の尊い命が交通事故で失われています。中でも、約半数の人が65歳以上の高齢者です。皆さんは「自分は大丈夫」と思い込んでいませんか。交通事故は、決して他人ごとではなく、とても身近なものです。

昨年11月、玉名署管内では2件の死亡事故を受け、「交通事故多発警報」が発令されました。続けて荒尾署管内でも1月に2件の死亡

事故が発生し、「交通安全対策緊急会議」が行われました。突然命を奪われた被害者と、突然命を奪ってしまった加害者。交通事故は、双方の家族に一生後戻りできない大きな悲劇を招きます。「交通事故を起こさない」「交通事故にあわない」「交通事故にあわせない」ために、一人一人が常に交通安全の意識を持ち続けることが、悲惨な交通事故をなくすために大切なことです。



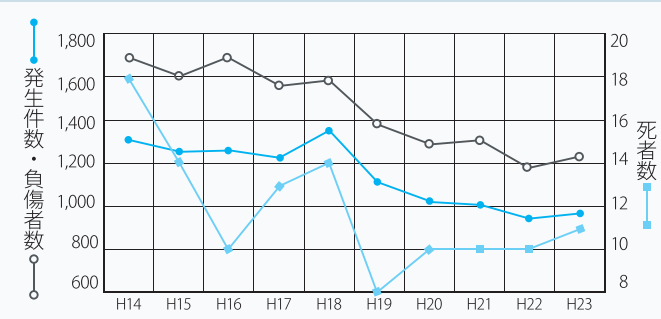
荒尾・玉名地域広報担当者による合同記事「荒玉かわら版」特別号 交通安全特集

お守りは「気をつけて」の優しい一言

発生件数・死者ともに増加

数字で見ると荒玉の交通事故は、荒玉地区の交通事故は、近年は全体的に減少傾向でした。しかし平成23年の発生件数は、前年比12件増の940件、負傷者は55人増の1千227人、死者は1人増の11人と、いずれも増加しました。

また、死者のうち、65歳以上の高齢者は7人です。



優しさで安全な地域に

交通事故は、誰もが当事者になる可能性があると同時に、私たちの意識の持ち方一つで防ぐことができます。交通事故を防ぐ意識とは、道路を通行するときは誰もがいつも周りに気を配り、予測をしながら通行する意識です。それは自分のこと以外にも、他の人たちのことを考える—互いに相手を思いやる心です。

インタビュで井田さんは「出かける前の『気をつけて』の声かけでも、安全意識は変わるんですよ」とも語りました。それはたった一言ですが、自分や大切な人を守る、とても優しい言葉です。

『気をつけて』その思いやりの一言が、大切な人を守る交通安全のお守りになります。このことを忘れず安全運転を心掛け、荒尾・玉名地域をよりすみよい安全な地域にしていきたいものです。

荒玉地域で目指す事故0 私の交通安全宣言

荒尾市 **林田光弘さん**



私は毎日仕事で車を運転しています。特に夕暮れの時間が危ないので、早めの点灯を心がけています。これからも時間に余裕を持ち、急がない運転をしていきます。

南関町 **大塚愛理さん**



暗くなってからのジョギングでは蛍光タスキを着けたり、明るめの服を着たりします。自転車は、危険を予測しながら運転しています。これからも交通安全に努めます。

玉東町 **井上孝幸さん**



今年、町内で高齢者の死亡事故が発生し、残念で悲しいです。自分と家族のためにも安全な歩行を心がけ、自分の体・自分の命は自分で真剣に守りたいと思います。

和水町 **松野美和さん**



私には2人の子供がいます。子どもの命を守るために、チャイルドシートにきちんと座らせるようにしています。これからも事故のないよう、安全運転します。

長洲町 **久島華蕉さん**



登校班では、1列に並んで登校しています。横断歩道を渡る時は、必ず止まって左右を確認して横断します。急ぐと危ないので、時間に余裕を持って出かけています。

玉名消防署 救命士 **海付真由子さん**



事故現場では、負傷した人の立場に立って話をしっかり聞き、素早く判断することを常に心掛けています。救命士として、感謝されることにやりがいを感じています。

もし事故で負傷者が出たら迷わず119番、救急車を！